

10月の第3日曜日が「孫の日」に制定されました。これは百貨店協会が売り上げを伸ばすために作ったもので、敬老の日から1ヶ月後にお年寄りにかわいい孫のためにお金を使ってもらおうというものです。

その商魂には少々辟易しますが、親と子、祖父母と孫、先祖と自分。そんな“家族”のある姿が一般に希薄になろうとしている今、もう一度考え直すきっかけには良いかもしれませぬ。

< 第 4 9 回 ほほえみの会 >

11人が参加しました

小学3年の女の子。入院して2ヶ月経ち外泊も出来るようになったが荒れて困っているということです。

病院にいるときは注射も素直にするしとても良い子だと聞いているのに面会に行くと「帰れ」と怒鳴るし、外泊で家に帰るとわがままの言い放題。大声で怒鳴るし暴れるし手のつけようがない。

どうして良いかわからないということでした。

これに対して出席者からは同様の体験談が出されました。

- ・知らない人の中での一人での入院生活、検査や注射、小学校3年生で自我にも芽生え小さい子のようにすぐ泣くこともできない。そんな病院でのストレスを家で、親の前で発散するのだろう。
- ・薬の副作用もあるだろう。
- ・入院すれば一時期性格も変わる。
- ・家で食事の時も兄弟の分まで全部自分が取ってしまい、親は何で弟ばかりを甘やかすのかと兄弟の関係までおかしくなりかけた。
- ・あまりに反抗がひどいときには少し子どもと離れ、スーパーに買い物に行ったりして距離を置き自分の頭を冷やした。

最終的には親が受け止めてあげなければいけないものだろうけど、少し距離を置くことも必要で、その頭の切り替えが大事ではないか。また母親には反抗的だが父親にはそれほどでもないとのことで、しばらくは父親に相手をしてもらえばいいのではないかという話が出ました。

病名を本人にも周りにも伝えてないが、ごく親しい人に話したら他の人にも広まってしまいショックを受けた。

親は子供に言うタイミングで苦慮しているのに、周りの知らないところで知れ渡ってしまった。

この件も同様の体験談があり、相手は心配していつてくれているのだろうがそっとしておいて欲しいし、「どうなの」と言われるのは苦痛という話が出ました。

臍帯血移植を行い順調に回復している2人の方も参加されました。共に最後の選択肢で臍帯血を選び偶然バンクに合う型の臍帯血があったということです。

そこに至るまでには

- ・いとならHLAの型が合うかもしれないとのことで検査をして欲しかったが、もし型があったときには家族ではない高校生にドナーを強要することになるので止めた
- ・骨髄バンクでは一次検査の合う方がいたので二次検査を打診すると何れも拒否されて落胆した。登録には覚悟を持って望んで欲しい。
- ・合わせて返事をもらうのに非常に時間がかかり間に合わなかった。そうした中での臍帯血、適合した臍帯血も体重75キロまで移植可能ということで中学3年生で50キロの息子に移植できた。非常に幸運だった。

臍帯血によって最後の救いの手がさしのべられた。

是非ともバンクの整備をお願いしたいという声が挙がっていました。

次回は8月8日(日)12時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一